

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24616005

研究課題名(和文)医療従事者の死生観およびコミュニケーションに関する現象学的研究

研究課題名(英文) Research on the view of life and death and on the communication among the care workers

研究代表者

村上 靖彦 (murakami, yasuhiko)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：30328679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではまず、終末期及び看取りに関わる現場にお勤めの看護師たちにインタビューを行った(がん看護、訪問看護、循環器、透析室)。そのうえで、西村ユミの方法論に基づきこの看護師のインタビューデータごとに現象学的に分析を行い、これを学会発表、雑誌論文として発表するとともに、とりわけ『摘便とお花見看護の語りの現象学』(医学書院)として単著を公刊した。また海外の学会発表及び雑誌でも研究を公刊している。そのうち精神科病院及び訪問看護ステーションでのフィールドワークを開始した。精神科病院では看護師と患者のコミュニケーションに注目し、参与観察とインタビューを繰り返し、現在データを分析中である。

研究成果の概要(英文)：I first interviewed with nurses who work in the units where the terminal care is considered as important task (cancer, visiting nurse, cardiovascular internal medicine, pediatric oncology). I used the phenomenological method to separately analyze each interview datum and published in several Japanese and foreign journals. Especially, I published a book on this topic (Tekiben to Ohanami, Tokyo, Igakushoin, 2013). After these interview studies, I started the fieldwork research in a psychiatric hospital and in a visiting nurse station. In this psychiatric situation, I am focused on the communication between the nurses and the patients and started to publish the articles in journals.

研究分野：現象学

キーワード：現象学 質的研究 看護学 終末期医療 精神科医療

1. 研究開始当初の背景

現象学的な看護研究は、ジオルジを中心とするデュケイン学派によるフッサールの現象学的心理学を質的研究へと導入する方向、およびベナーによる初期ハイデガーの世界論を看護師の技能習得の理論化に導入した議論など、幾つかの系統でこれまでなされてきた。日本でも彼らの議論が導入されると共に(例えばジオルジの技法を導入した高橋照子)、西村ユミによって理論的にはメルロ＝ポンティを出発点とする形で、独自の現象学的な看護研究の技法が開発されてきているとともに、榊原哲也や松葉祥一を代表とする科学研究が組織され、また西村を中心とした研究会が精力的に活動する中で、看護師を中心にこの方法論が普及してきた。

その中で研究代表者は、哲学研究者として医療現場でフィールドワークを行うことで、死の問題、コミュニケーションの問題といった伝統的な哲学の問いを深める可能性が見通されたのが背景となっている。

2. 研究の目的

本研究はまず看護師がどのように死の直前の患者の生をどのように経験しどのようにケアするのかを探求することを目的としている。あわせて言語を用いることの困難か患者と、医療従事者と家族とのあいだの対人関係がいかなる構造を持つのかを探求する。

哲学的には、生と死の境目の現象学的な定義を得ること、そして他者論を作り直すことを目的としている。生と死の境目や重い障害においては、人間の様々な属性が剥ぎ取られた状態と人間関係が露出すると類推できる。従来の哲学が人間の本質として前提としてきた思考(言語活動)や行為あるいは身ぶりや表情による非言語的なコミュニケーションまでもが無効になるのが、死の間際や重い精神障害である。そして医療現場ではそのような哲学が見逃しがちであった人間経験の側面が露出するがゆえに、この現場での医療

従事者の経験を探求することは普遍的な哲学的な主題ともなるのである。

現象学研究はそれぞれの人による個別の経験の特異な部分を掘り出すことを目的とする。それゆえジオルジの現象学的心理学に基づくとされる方法論とは異なり、複数のデータから共通要素を抜き出すという一般化の作業は行わない。特異な経験の細部にこそ経験の本質が表現されると考えているからである。個別経験の「構造」を明らかにすることが目的となる。

3. 研究の方法

- ・ 看護師を中心とした医療従事者にインタビューを行い、質的研究の一つとして現象学的な分析を用いる。

- ・ 一回のインタビューは1時間から2時間30分程度。時間は決めない。最初に研究テーマの説明を行う場合は、非構造化で行う。協力者が連想したことを自由に語ってもらう。
- ・ インタビューについては、言い間違いや言いよどみ、身ぶりなども記録した詳細な逐語録を作成する。語り手の意図を超えた文脈を取り出すためである。

- ・ データについては、現象学の方法論を用いて分析する。

- ・ たとえばジオルジであれば多数のデータから共通要素を抽出する手続きをとるため、個別の経験が持つ複雑な構造を捉えることができない。本研究の対象は、個別経験がもつそのつど新たな構造であるため、既存の方法は使えないし、あらかじめ枠を設定するような議論は可能なかぎり避ける。

4. 研究成果

本研究ではまず、終末期及び看取りに関わる現場にお勤めの看護師たちにインタビュー

を行った(がん看護、訪問看護、循環器、透析室)。そのうえで、西村ユミの方法論に基づきこの看護師のインタビューデータごとに現象学的に分析を行い、これを学会発表、雑誌論文として発表するとともに、とりわけ『摘便とお花見 看護の語りの現象学』(医学書院)として単著を公刊した。

また海外の学会発表及び雑誌でも研究を公刊している。海外の哲学研究の世界では、このような研究は皆無であり、その意味で、日本から発信していくことの意義は大変大きいと実感した。

これらの研究を通して、看取りを行う看護師が持つ独特の時間性および空間構成を理解するに至った。また研究を進める中で方法論を錬成することができ、とりわけインタビューそのものの技術、データ分析の技法について大きな知見を得ることができた。

看取りに関するインタビュー研究に一つの区切りがついた後で、精神科病院及び訪問看護ステーションでのフィールドワークを開始した。精神科病院では看護師と患者のコミュニケーションに注目し、慢性期病棟や訪問看護において参与観察とインタビューを繰り返す。現在データを分析中である。歴史的な経緯が重たくのしかかる中で現在大きく変化しつつある現場であり、制度と実践の関係、患者の拘束と人権の確保の関係など、おそらくいままでの現象学では問われたことがない問題に直面している。

訪問看護ステーションにおいては、実践に参与観察するとともに、看護師たちにインタビューを行っている。こちらも現在データ分析を行っているところである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11件)

1. 村上靖彦、「精神看護における接遇についての一考案 看護師へのインタビューに

基づく現象学的な質的研究」、大阪大学大学院人間科学研究科紀要、査読なし vol.41, 2015、pp. 43-60、

2. Yasuhiko Murakami, (2014), « L'endroit à partir duquel quelqu'un m'appelle », Perspective soignante, 査読なし Vol. 49, pp. 64-81 ,
3. 村上靖彦(2015). 「あの世、恋する身体看取りにおける垂直的時間について」『宗教哲学研究』、日本宗教哲学会、査読なし、32. , pp. 55-66
4. Yasuhiko Murakami (2015). « Le soin infirmier dans l'hôpital psychiatrique au Japon et la mise hors circuit de l'institution médicale » . Revue Institutions. 査読あり Vol. 55., pp. 57-71
5. 村上靖彦(2015).「仙人と妄想デートするACTによる重度の精神障害者への在宅支援と反転された精神病理学」『現代思想』、査読なし vol. 43(11),
6. Yasuhiko Murakami (2014). L'époque du futur dans le soin des cancers de l'enfant. Annales de phénoménologie. 査読あり **13**, pp. 181-210. Annales de phénoménologie、
7. 村上靖彦(2013).「ローカルでオルタナティブなプラットフォーム 助産師Eさんと現象学的倫理学」『現代思想』 査読なし **41(11)**, pp. 152-165.
8. 村上靖彦(2012).「抗がん剤の存在論 - がん緩和専門看護師へのインタビューから」『現象学年報』査読なし **28**, pp. 23-32.
9. Yasuhiko Murakami (2013). Le passé imaginaire pour un bébé avorte et l'appel chez Maldiney. Annales de Phénoménologie. 査読あり **12**, pp. 237-254.
10. 村上靖彦(2013).「透析室における「見える」もの 規範の空間論」『人間科

学研究科紀要』査読なし **39**、pp. 295-314.

11. 村上靖彦(2013).「事例を現象学的に読む 現象学的な質的研究の方法(看護師の語りを例に)」『臨床精神病理』**33(3)**、pp. 315-322.

〔学会発表〕(計 18 件)

1. Yasuhiko Murakami, « L'interruption de l'imagination dans le soin des cancers de l'enfant », Soirée d'étude sur les soins palliatifs --Accompagner un enfant en fin de vie , 2015. 3.26, Toulouse University
2. Yasuhiko Murakami, « L'apport de la méthode lacanienne à la recherche qualitative phénoménologique », Colloque Phénoménologie de l'inconscient , 2015. 3.19, Karel University
3. Yasuhiko Murakami, « Maldiney au Japon et la pratique de l'infirmière psychiatrique », Colloque de Cerisey: À l'épreuve d'exister avec Henri Maldiney , 2014. 8.2, Cerisey la Salle,
4. Yasuhiko Murakami, « La spatialisation de la vie et les soins infirmiers dans un hôpital psychiatrique au Japon », International Conference: Chora. Eléments pour une nouvelle phénoménologie de l'espace, 2014. 5.15, Leuven University/Gent Campus,

〔図書〕(計 10 件)

1. Maria Gyamand, Delia Popa (ed.) , *Approches phénoménologiques de l'inconscient* , OLMS ,2015, 282pp(分版執筆 Yasuhiko Murakami 担当分, pp. 249-262)
2. Delia Popa, Benoist Kanabus, Fabio Bruschi (ed.), *La portée pratique de la phénoménologie* , P.I.E. Peter Lang , 2014,

(分版執筆 Yasuhiko Murakami 担当分, pp. 245-258)

3. F. Bastiani, M. Saint-Jean, éd. Soin et fin de la vie - Pour une éthique de l'accompagnement, Paris: Seli Arslan, 2014, (分版執筆 Yasuhiko Murakami 担当分, pp. 55-70.)
4. F. Bastiani, S. Sholokhova, éd. Rencontrer l'imprévisible - à la croisée des phénoménologies contemporaines. Argenteuil: Le Cercle Herméneutique, 2013, (分版執筆 Yasuhiko Murakami 担当分, pp. 153-164.)
5. (単著) 村上靖彦. 『摘便とお花見 看護の語りの現象学』、医学書院、2013, pp. 1-416.
6. 村上靖彦. 「子供の死における想像上の過去 助産師 B さんの語りから」中山剛、信原幸弘編著、『精神医学と哲学の出会い 脳と心の精神病理』、玉川大学出版会、2013, pp. 88-101.
7. 村上靖彦. 「重力と水--レヴィナスのエロスと体が動かない人の介護」合田正人編著、『顔とその彼方 レヴィナス『全体性と無限』のプリズム』、知泉書館、2013, pp. 189-202.
8. (単著) 村上靖彦(2012). 『レヴィナス 壊れものとしての人間』、河出書房新社、pp. 1-246.
9. R. Burggraave, J. Hansel, Lescourret M.-A., J.-F. Rey, J.-M.Salanskis, éd. Lévinas autrement. Louvain: Peeters, 2012, (分版執筆 Yasuhiko Murakami 担当分, pp. 307-322.
10. 木村敏、野家啓一監修、『臨床哲学の諸相 「自己」と「他者」』、河合文化研究所、pp2012, . (分版執筆 村上靖彦 担当分, pp. 152-175.)

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者
村上靖彦 (MURAKAMI, Yasuhiko)

研究者番号：30328679

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：